ISSN 2436-911X

# アジア・アフリカ言語文化研究

# JOURNAL OF ASIAN AND AFRICAN STUDIES

No. 112
September 2026

浜中　沙椰
西夏文『白傘蓋経』諸断片訳注
漢文真智訳・チベット文との対校

林　徹
追悼：Lars Johanson 先生

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)

# CONTENTS／目次


Source Material

5 **Annotated Translations of Tangut Fragments of the *Sitātapatrā Dhāraṇī Sūtra***
A Comparison with Zhenzhi's Chinese Version and Tibetan Texts
**Hamanaka, Saya**

資料
**西夏文『白傘蓋経』諸断片訳注**
漢文真智訳・チベット文との対校
**浜中　沙椰**

41 **Remembering Professor Lars Johanson**
**Hayasi, Tooru**

**追悼：Lars Johanson 先生**
**林　徹**

## 執筆者／CONTRIBUTORS

**浜中沙椰**
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
特任研究員
日本学術振興会特別研究員
**Hamanaka, Saya**
Research Associate
Research Institute for Languages and Cultures
of Asia and Africa
Tokyo University of Foreign Studies
Research Fellow
Japan Society for the Promotion of Science

**林　徹**
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
フェロー
放送大学
名誉教授
東京大学
名誉教授
**Hayasi, Tooru**
Research Fellow
Research Institute for Languages and Cultures
of Asia and Africa
Tokyo University of Foreign Studies
Professor Emeritus
The Open University of Japan
Professor Emeritus
The University of Tokyo

# 執 筆 要 領

1. 原稿は，日本語・英語・フランス語のいずれかを使用すること。
2. 原稿は,「論文」または「資料」とする。「論文」は, 執筆者自身による未発表の研究論文,「資料」は，研究・分析のための資料を研究者一般が利用できる形にして掲載するもので，言語テキスト，語彙資料，歴史資料など。
3. 原稿は，以下の要領で作成すること。

a. MS-Word で作成すること。
b. A4 判で，天地左右とも余白 22 ミリ。日本語の場合は文字サイズ 10.5 ポイントにて，横書き 43 字×40 行，英語またはフランス語の場合は，文字サイズ 12 ポイントを使用し，ダブル・スペースで入力すること。
c. 表・図などには表題と通し番号を付けること。
d. カラーの写真や図の掲載を可とする。
e. 特殊文字・記号を用いた場合には，その一覧表を添付すること。

4. 原稿は，1 枚目を表紙とし，「論文」「資料」の別のほか，表題，執筆者名，所属・職名（日本語原稿の場合には，日本語・英語の両文），メールアドレスを記す。2 枚目以降には，執筆者名および所属など筆者を特定できる情報を記載しないこと。
5. 2 枚目以降は，論文または資料の本文とし，「論文」「資料」の別, 表題 に続いて要旨, キーワード，目次，本文を記す。その際，特に次の点に注意すること。

a. 要旨は，英語にて作成すること（300 語程度）。
b. 目次は，第 2 階層までの見出しを記すこと。
c. キーワードは，日本語と英語それぞれ 5 語を附すこと。原稿 が英語またはフランス語の場合には，英語 5 語のキーワードを附すこと。
d. 注は脚注とし，1 から始まる通し番号とすること。謝辞などはタイトル行に「*」として入れ，注番号に含めないこと。
e. 論文などに言及，あるいは論文などの一部を引用する場合には，次のような形で著者名，出版年，ページを記す。

山口 1978: 25.
Sapir 1925: 40–41.

6. 参考文献は稿末に一覧としてまとめる。同著者による同年の文献が複数あるものについては，2004a, 2004b などとして区別すること。なお，文献を言語別に分けてもよい。その場合，日本語文献については五十音順とする。文献の記載方法は原則として以下の例に従うこと。

a. 単行本［例］

山口昌男 1978『知の遠近法』白水社.
Jespersen, Otto. 1924. *The Philosophy of Grammar*. London: Allen and Unwin.

b. 雑誌［例］

前嶋信次 1966「テリアカ考―文化交流史上から見た一薬品の伝播について」『史学』38(4): 1–39.
Mithun, Marianne. 1984. “The Evolution of Noun Incorporation.” *Language*, 60(4): 847–894.

c. 論文集掲載論文［例］

飯塚正人 2012「イスラームとは何か？従うべき『知』〈神の命令〉を求めて」床呂郁哉・西井涼子・福島康博編『東南アジアのイスラーム』, 25–28, 東京外国語大学出版会.
Berge, Anna. 2016. “Insubordination in Aleut.” *Insubordination* (Nicholas Evans and Honoré Watanabe, eds.), 283–308, Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

＊同一論文集中の論文を多数引用している場合，その論文集自体を単行本の扱いで見出しとして出し，各論文には次のような要領で論文集を示す方式を取ってもよい。

Berge, Anna. 2016. “Insubordination in Aleut.” *Insubordination* (N. Evans et al. eds.), 283–308.

7. 言語学における例文の引用などについては，以下のように, 語または形態素ごとに訳「グロス」をつけること。

(1) *nákorera* *ébaná*
I.am.working.for children
‘I am working for the children.’

(2) *n-á-kor-er-a* *ébaná*
1SG.SUB-PRES.PROG-WORK-BEN-FIN children
‘I am working for the children.’

(3) n-á-kor-er-a ébaná
1 単主語-現在進行-働く-受益-語尾 子供たち
「私は子供たちのために働いている。」

8. 原稿で複製する写真と図を含むすべての資（史）料の使用許可は，執筆者が自己責任において得るものとする。その際，使用許可に対する謝辞は執筆者の責任において明記すること。

## 投 稿 規 定

1. 原稿の内容は，アジア・アフリカの言語文化研究に学術的に寄与しうるものとします。
2. 投稿された原稿は，2名以上の匿名の査読者による査読を受けるものとします。なお，分野によっては他誌への投稿をお願いすることがあります。
3. 投稿者の資格は，特に制限しません。
4. 原稿の分量は，「論文」の場合のみ，「執筆要領」に定める書式に基づき，A4（43字× 40行）で30ページまでとします。分量の制限は論考の本文のみにかかるもので，表紙，要旨，キーワード，目次，注，参考文献，図表等を含みません。「資料」の場合，分量に制限はありません。
5. 投稿原稿は，他誌に過去掲載されていないもの，投稿時点で他誌に投稿中でないものに限ります。
6. 校正は，初校を著者校正とし，資料などの性質上，必要と認められた場合には2校目以降も著者が行うものとします。校正時の訂正は，誤植および字句の修正以外は認めません。なお，誌内での統一のため，原稿内の表記の一部を編集部で変更する場合があることをご了承ください。
7. 抜刷は，あらかじめ注文があれば，実費（著者負担）で作成します。
8. 本誌に発表されたものを転載する場合は，あらかじめ本編集部にご一報の上，転載された出版物を1部ご寄贈ください。
9. 編集部は本誌に掲載された全ての原稿を電子媒体によって複製，公開し，公衆に送信することができるものとします。
10. 投稿希望者は，下記連絡先宛てにメールを送り，原稿の送付先についての指示を受けてください。
11. 連絡先：
    東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
    『アジア・アフリカ言語文化研究』編集部
    〒183–8534 東京都府中市朝日町 3–11–1
    E-mail: edit-js[at]aa.tufs.ac.jp（[at] を@に変更）

All works published by the ***Journal of Asian and African Studies (JAAS)*** are made available through a Creative Commons Attribution 4.0 International (CC BY 4.0) license.
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/

## ◉ 編 集 後 記 ◉

『アジア・アフリカ言語文化研究』112号編集部は国内外から合計7点（「論文」4点，「資料」3点）の投稿原稿を受理しました。

各投稿原稿は少なくとも2名の査読者（所外の査読者を含む）による慎重な審査を実施し，その結果，1点（「資料」1点）が採択され，当誌に掲載されました。

## ◉ お 知 ら せ ◉

刊行時のご案内をご希望の場合は，edit-js[at]aa.tufs.ac.jp（[at] を@に変更）へメールアドレスをお知らせください。

http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/jaas

**アジア・アフリカ言語文化研究　112号**

2026年9月30日発行

**編集・発行**：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183–8534　東京都府中市朝日町 3–11–1
（電話 042–330–5600）

**編集専門委員**：荒川慎太郎（委員長），石川登，河合香吏，神田惟，倉部慶太，児倉徳和，塩原朝子，床呂郁哉，永原陽子，早川英明，増田研，三浦徹，森口恒一，依田純和 50音順

**編　集　部**：荒川慎太郎（編集長），河合香吏，神田惟，倉部慶太，児倉徳和，塩原朝子，床呂郁哉，早川英明 50音順

**組　　版**：中西印刷株式会社
〒602–8048　京都市上京区下立売小川東入